

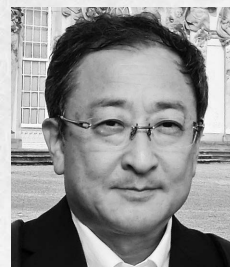
化学教育 徒然草

SDGs と GSC

IMAI Izumi

今井 泉

東邦大学 教授
化学だいすきクラブ小委員会 副委員長
国際関係小委員会 委員



巻頭言

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) が注目されている。SDGs は、国際連合が採択した 2030 年までの国際社会共通のゴール (目標) である。SDGs の目標は、第 70 回国連総会で採択された「Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ)」に示されているように、世界を変えることである。この目標は、People (人間), Planet (地球), Prosperity (豊かさ), Peace (平和) を追求するためのもので、国際社会の Partnership (パートナーシップ) により実現を目指す。これら 5 つの P (5Ps) が世界を変えるための基本姿勢で、具体的な 17 のゴールを設定している。これら 17 のゴールの関連性は、ストックホルムのレジリエンスセンターが作成したウェディングケーキモデルに示されている¹⁾。このモデルの土台となっているのが「生物圏」である。その上に「社会圏」、さらにその上に「経済圏」が乗る。17 のゴールは「経済圏」、「社会圏」、「生物圏」の三層に分類され、経済は社会に、社会は生物圏 (環境) に支えられていることが示されている。環境の持続可能性なしには、社会や経済の持続的な発展は成り立たないことが理解できる。そして、SDGs は私たちが生存する環境を維持するために、経済・社会・環境の三要素を調和させることが不可欠だとしている。この考え方は、グリーン・サステナブルケミストリー (Green and Sustainable Chemistry: GSC) と共通している。GSC は、「人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学」を追求する。GSC の三要素 (「地球環境との共生」・「社会的要請への充足」・「経済の合理性」) は SDGs の三要素に含まれ、考え方には多くの共通点がある。GSC の実践は、SDGs に貢献する。GSC は SDGs のけん引役であると言える²⁾。

2018 年 7 月、高等学校学習指導要領解説理科「化学」(5) 化学が果たす役割に、初めて「環境に負荷をかけないグリーンサステナブルケミストリー」が明記された。GSC の理念を広く普及させ、教育現場に浸透させることは、「次代を担う世代への GSC の普及」の観点において重要である。

1) <https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>

2) GSC 入門: http://www.jaci.or.jp/gscn/img/page_19/gsc_guide_spl.pdf

[連絡先]

274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1 (勤務先)